矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.2

発　行　日：平成 26 年 6 月 12 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 17 回山部会WGを開催しました！

6 月 12 日（木曜日）に第 17 回山部会WGが開催されました。
前回のWGで決めた 4 つの活動についての方針に基づき、今回のWG では、「山村再生担い手づくり事例集について」と「矢作川流域圏木づかいガイドラインについて」について話し合いました。

日　時：平成 25 年 6 月 12 日（木）14 時～17 時
場　所：しゃくなげ　1F　大ホール
参加者：17名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

昨年度に引き続き作成することとなった「山村再生担い手づくり事例集」については、今年度の進め方（スケジュール）を確認するとともに、各地域における取材先候補について話し合いました。
また、各部会間の連携を進めることを目指して、川部会・海部会メンバーに取材への参加を呼びかけながら進めていくことが確認されました。

2．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動を考えて、これを核とし、その行動・活動を行政・業界・研究が支援していくことを目指しています。
流域内で関連する方々へ呼びかけていくことも引き続き進めていくことが重要との指摘もあり、今年度も流域連携を進めていくこととして情報共有がされました。

3．山川海の流域連携について

平成 26 年 5 月 14 日に開催された第 12 回市民企画会議にて議論された流域連携のテーマについて、主な担当者について紹介され、情報共有がされました。
流域連携のテーマは、次の 3 テーマが掲げられ、山部会からも、メンバーが選出されました。
1．ごみ・流木、2．土砂、3．木づかい

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

●山村再生担い手事例集の作成スケジュールについて

以下のように進めることを想定します。

７月（取材先の選定）→ ８月（取材者の募集）→ ９月（取材者と取材先のマッチング）→ ９月中旬：取材実施（11 月までを予定）

昨年と同様、取材後には 12 月～3 月の間で、取材者によるレポートの作成・提出を予定しています。取材の募集に関しては、メーリングリストとともに川・海の部会で連絡する。

●取材先について

●長野県　根羽村
・木の駅/菊の会
●岐阜県　恵那市
・ゴーバルハム/三宅林業

●愛知県　豊田市
おいでん・さんそんセンター/アンティマキ/てくてく農園/足助里山ユースホステル NPO 法人都市と農山村交流スローライフセンター/新盛里山耕流塾/しもやま里山協議会/近藤しいたけ園/こいけやクリエイト

●愛知県　新城市
・NPO 法人　BIO de BIO
●愛知県　岡崎市
・じさんじょの会/林業クラブ

- 取材先への連絡は根羽村は南木さん。恵那市は丹羽さん。豊田市は洲崎さん。岡崎市は沖さんが行うこととなりました。

○主な意見

- 事例集の取材先同士が集まれる仕組みがあるとよい。（今村）
  - ➢ 取材先同士が集まって、事例集の出版記念のようなイベントで交流ができると面白い。（松井）
  - ➢ 有志ででもそのような会が開けるとよい。（洲崎）
- 昨年度、取材したところを再び訪れて、追加取材という形式をとっても面白い。別の観点から取材することで、新たな情報収集が可能となり有意義と思う。（近藤）
- 関係者へ流域圏懇談会や取材趣旨を説明するにあたって、分かりやすく説明できる資料があれば提供してもらいたい。（南木）
  - ➢ 昨年度作成した山村再生担い手事例集で説明することがよい。巻頭には矢作川流域圏懇談会の説明も入れてある。（洲崎）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインは、ライフステージに着目して推進方策について、意見交換をしてきました。今後は、ガイドラインの作成方針にもある「市民目線」を意識していくことが重要とされたため、「木とそれをはぐくむ矢作川の流れとともに生きるライフスタイルへの誘い～矢作川デイズ～」として、市民、市町村、業界、研究者がそれぞれ、各主体に向かって提案をする「さあ～しよう」のフォーマットに基づき各自で考えてくることとなりました。

○主な意見

- 森の健康診断の手法は山の興味喚起につながるので面白い。根羽でもやりたい。（南木）
- 間伐材を使った橋りょうなどの見学会を木曽地域で経験したことがある。林野庁や地元自治体などが企画した林業ツアーは、木づかいという面で、大変有意義であったので、そのようなイベントも行えたらよい。（沖）
  - ➢ 川部会との連携という面で、木工沈床などの河川工事に関連させて木づかいを考えることもよいと思う。（洲崎）
  - ➢ 河川工事への木材供給という面では、材料を提供するための山の管理をセットでしている仕組みが新潟であったと聞いており、興味深い。（近藤）
- 地元全体で盛り上がれるような仕掛けがあるとよい。例えば、地元の木材をフリーマーケットのようなかたちで出品者、購入者が交流できると面白い。（松井）
- 木づかいの資料にある根羽村の小学校での森林学習が大変興味深い。地元で根付いたら中下流の小学生などにもぜひ体験してもらいたい。（山本）
- 都市住民の視点が欠けているので入れられないか。（近藤）
  - ➢ 都市住民にとっては、大地震など予期しないことが起きた際に、少なくとも流域圏では、山・川・海が連携していて地域材の流通が実現できる点で持続可能であることを実感させるべきだと思う。（山本）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会は 7 月 25 日（金）に開催します。